

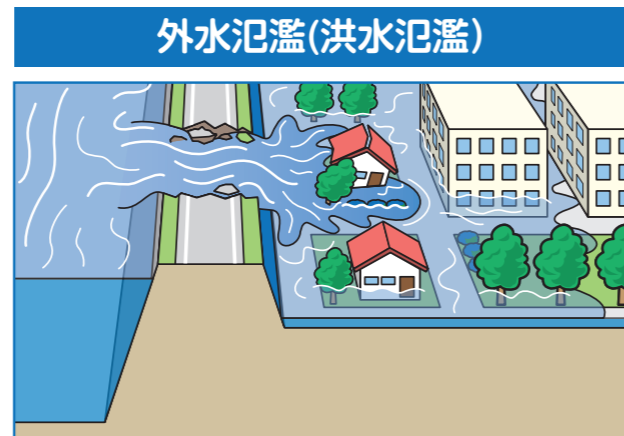
多賀城市 内水ハザードマップ

内水氾濫と外水氾濫(洪水氾濫)

浸水には、降った雨が河川等に排水できずに発生する「内水氾濫」と、河川からあふれて発生する「外水氾濫(洪水氾濫)」があります。



その場所に降った雨水が、下水道や水路等では処理きれなくなり、マンホール等からあふれてしまう現象です。(雨水出水浸水想定区域は、裏面参照)

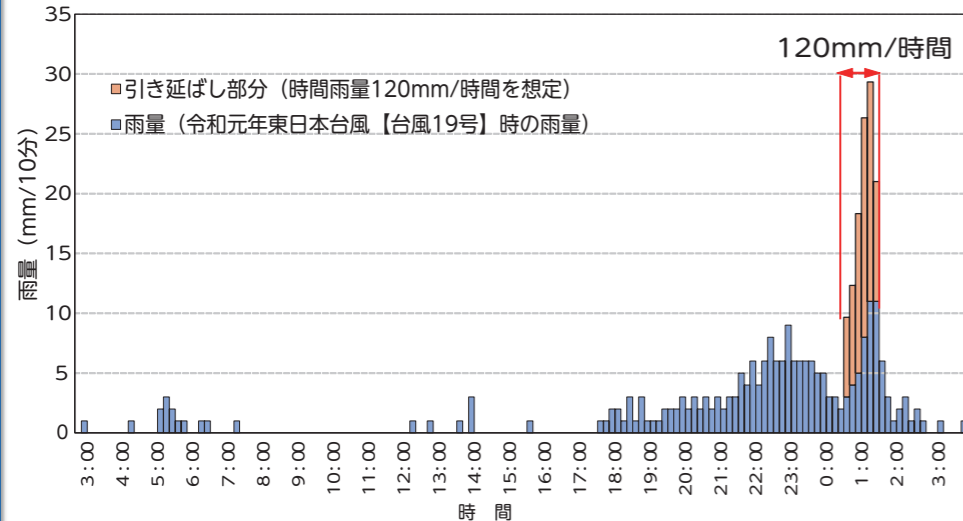


大雨で川の水量が増え堤防を越えたり、堤防が決壊したりして川の水が外へ流れ出てしまう現象です。(洪水浸水想定区域は、防災ハザードマップ【2023.3改定版】参照)

内水ハザードマップについて

前提条件	この内水ハザードマップは大雨時に想定される下水道や水路に起因した内水氾濫の浸水範囲や浸水深を記したマップです。 お住まいの地域における浸水情報を確認していただき、避難行動にお役立てください。 ※連続した降雨等、実際の雨の降り方によっては浸水区域でない場所が浸水したり、表示と異なる浸水深となる場合がありますためご注意ください。 ※地形図及び地盤高情報は2023年3月末時点で国土地理院基盤地図情報にて公表されている資料を参考としています。 ※地盤高情報は現況と整合をさせるため一部修正を加えています。
1時間に120mmの降雨	

想定最大規模降雨について



内水ハザードマップのシミュレーションで使用している想定最大規模降雨は、「浸水想定(洪水、内水)の作成等のための想定最大外力の設定手法 平成27年7月 国土交通省」の考え方にに基づき、令和元年東日本台風時における降雨量42.5mm/時間を120mm/時間に引き伸ばした上で総雨量は、325mmを想定しています。

■ 降雨のイメージ

1時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
雨の強さ(予報用語)	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる	傘は全く役に立たなくなる		
屋内(木造住宅を想定)	雨の音で話し声が良く聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)	車の運転は危険	

出典：気象庁 雨の強さと降り方

■ 住宅の浸水被害を防ぐためには

雨水が侵入しないように土のう、止水板を設置することや、普段から道路の側溝などを掃除して、雨水が排水できるようにしておくことで、住宅の浸水被害を防ぐことができます。

土のう	止水板	側溝や雨水ますの集水口の確認
出入口にブルーシート等で包んだ土のうを置き、雨水の侵入を防ぎます。	出入口に長めの板等を設置して、水の上等で固定し、浸水を防ぎます。	道路の側溝や雨水ますの集水口(グレーチング)に落ち葉などが詰まっていないか確認しましょう。詰まっていたら取り除いておきましょう。
土のうの代用品 水のう ポリタンク プランター		

屋外に出るのが危険な場合は「緊急安全確保」

周辺が浸水し、屋外に出るのが危険な場合は、近くの建物や自宅の2階以上に避難しましょう。

防災・気象情報の提供先

それぞれ右のQRコードを読み取りご確認ください。

キキクル	気象庁では、大雨による土砂災害、浸水害、洪水の危険度をキキクル(危険度分布)のホームページで色分けして掲載しています。	
多賀城市防災情報アプリ	災害時に市民の皆さんが防災情報を入手することを目的としたスマートフォン向けの防災情報アプリ「多賀城防災」です。	
多賀城市防災ハザードマップ	洪水・土砂災害、津波ハザードマップおよび風水害や地震などに関する学習ページで構成されています。	
土のうの提供場所	市では、市内4箇所に土のう置場を設置しました。ご自宅などの浸水対策にご活用ください。	